



25 お姉ちゃんと弟①

2013.8 執筆

2013年5月にウリュウ（オス）が生まれ、京都市動物園のキリンはお父さんのキヨミズ、お母さんのミライ、コドモ・姉のシウン、弟のウリュウの4頭家族になりました。私自身、一度に飼育したキリンは最高で3頭だったので4頭の飼育は初めてです。しかも、念願の兄弟の関係を見ることが出来たのでとても嬉しく思っています。

両親と子が1頭という関係しか見ていなかった私にとって、お姉ちゃんと弟の行動が見られるのは楽しみでしたし、コドモ同士で集まる習性のあるキリンにとっても良い環境だと思っています。

それに、シウンが間近で育児をする母親を見たり、新生児と接したりすることは、将来彼女が出産・育児を経験する上で何かしらの役に立つのではと思うのです。

ミライがウリュウを出産する時、私はシウンを同じ部屋に入れておくべきか分けておくべきかととても悩みました。悩んだ結果、別の部屋に分けておくことを選択しました。しかし、それは決してベストな判断だとは思っていません。同じ部屋で出産させるのも良かったのかもしれない。今後の課題です。

ウリュウが生まれてから2日半後には、シウンをミライとウリュウのいるところに入れました。シウンは、それまで柵越しに見ていた弟でしたが、同じ空間に入るとすぐに彼の鼻面に自分の鼻面を合わせてあいさつをしました。それはとても微笑ましい光景でした。

それからというもの、シウンは母親よりも弟の近くにいる方が多く見られ、シウンとウリュウは見るたびに一緒にいるといった感じでした。元々、キリンは母親にベッタリとくっついて行動する動物ではありません。兄弟がいなくてもいつも母親のそばにいるわけではないのです。しかも、野生では保育所のようにコドモたちだけが集まるクレイシと呼ばれるキリンの集団ができます。この4頭を見ていると明らかにコドモたち同士の距離はオトナとの距離よりも近くにありました。

よく見られたのは、座っているウリュウのそばにシウンが立っている光景です。キリンのアカチャンは日中とてもよく座ります。大きくなるに従って頻度は減っていきます。ウリュウも例外ではなく、部屋の中はもちろん、広いグラウンドでもよく座っていました。その時、シウンはまるでウリュウを守るかのようにすぐ脇に立っていました。この行動は、今までいつもミライの役目だったのですが、今回はその役のほとんどをシウンがしました。ちなみに、ミライはまだコドモを産んだことがない若い時に、座っているキヨミズの横で立っていたのを何度か見たことがあります。自分のコドモに対してのみ見られる行動ではないようです。

シウンは時にはウリュウと一緒に座っていることも。その時も近くで座っていました。

弟の傍らに立っていたり、はたまた一緒に座っていたりするこの光景は本当に微笑ましく、姉弟のキリンを観察することが出来て良かったとしみじみ思いました。

お姉ちゃんと弟のお話はまだ続きます……



木陰で座るウリュウの
傍らに立つシウン



グラウンドで2頭並んで座る
左：シウン
右：ウリュウ